

ダニエル書6章3節 「優れた霊」

1A 優れた霊を宿すという評価

2A 優れた霊の特徴

1B 決意している心

2B 祈りの生活

3B 神と交わる場

3A 優れた霊の結果

1B 高い地位

2B 優れた理解力

3B 広域な影響力

4B 愛された人

本文

ダニエル書 6 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは先週で 5 章まで来ました。午後礼拝で、6 章を一節ずつ見ていきたいと思います。ここにも、信仰者としての歩みにとって、ダニエルの生涯は数多くの手本や知恵が含まれています。ぜひ午後礼拝も参加してみてください。今朝は、その一つに注目します、3 節を読みます。「ときに、ダニエルは、他の大臣や太守よりも、きわだってすぐれていた。彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからである。そこで王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った。」

私たちは、バビロンがメディア・ペルシヤ連合軍によって倒れたところを読みました。そして 5 章最後に、「メディア人ダリヨスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。」とあります。バビロンの国はペルシヤ国に移り変わりますが、クロスは暫定的にメディア人のダリヨスにその統治が任せたとされています。そしてダリヨスは、新たな統治体制を敷きます。太守を全州に 120 人任命しました。それから、その太守らの上に 3 人の大臣を置きました。その一人に、ダニエルをダリヨスは置いたのです。ところが、ここに書いてあるようにどの大臣よりも、太守よりも、彼は際立って優れていました。それで、ダリヨスは彼に全国を治める、すなわち総理大臣へと任命しました。そして、その彼の優れた能力が、残りの二人の大臣の妬みを買います。

1A 優れた霊を宿すという評価

ダニエルが、老齢になっていて、「優れた霊を宿している」という評価を受けましたが、これが彼の生涯の特徴でありました。ネブカデネザルが夢を見て、心が騒ぎ、解き明かしのためにバビロンの知者をことごとく連れて来させましたが、彼らはその解き明かしを知らせることはできませんでした。しかし、知者たちの長であるダニエルが最後に、連れて来られました。そしてネブカデネザル

は、こう言うのです。「4:18 私の国の知者たちはだれも、その解き明かしを私に知らせることはできない。しかし、あなたにはできる。あなたには、聖なる神の霊があるからだ。」聖なる神の霊があると評しました、優れた霊です。

そして、バビロンの最後の王、ベルシャツアルの前に人間の手の指が現れ、塗り壁に文字を書いた時に、彼も知者たちを集めました、誰も解き明かすことができません。彼は酷く怯えていましたが、そこに王母がやって来ました。そして彼女は、ダニエルがいることを伝えています。そして、彼女はこのように紹介しています。「5:11-12 あなたの王国には、聖なる神の霊の宿るひとりの人がいます。あなたの父上の時代、彼のうちに、光と理解力と神々の知恵のような知恵のあることがわかりました。ネブカデネザル王、あなたの父上、王は、彼を呪法師、呪文師、カルデヤ人、星占いたちの長とされました。王がベルテシャツアルと名づけたダニエルのうちに、すぐれた霊と、知識と、夢を解き明かし、なぞを解き、難問を解く理解力のあることがわかりましたから、今、ダニエルを召してください。そうすれば、彼がその解き明かしをいたしましょう。」聖なる霊を宿しており、そして優れた霊があることを伝えています。

2A 優れた霊の特徴

「優れた霊」とは、霊が上位に来ていること。様々な思いがあり、また肉体の欲求もいろいろあるけれども、霊が上位に来ていて、霊が支配している状態のことを言います。

1B 決意している心

ダニエルはどのようにして、優れた霊を保っていたのでしょうか？私たちは彼の生涯を見てきました。その特徴的な姿は、「心に定める」決意でありました。「1:8 ダニエルは、王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願った。」とありました。王の食べるごちそうは、ユダヤ人が食物規定の中で、食べてはいけないとされている動物があったでしょう。また、食べてよいものであっても、バビロンの神々に捧げられた肉だったかもしれません。彼は、主なる神を第一にして、自分自身を主に生ける供え物として捧げていた生活を送っていました。

異教社会の中で、神を信じて生きる人々には、同じ特徴がありました。ヨセフがいますが、奴隷としてエジプトに売られました。ポティファルというパロの家来の家を買われましたが、主がヨセフと共にいて、家全体が祝福されました。ヨセフは、主人を敬い仕えていました。ところが主人の妻が、彼が美男子なので言い寄ってきました。「私と寝ておくれ」と言ったのです。しかし、彼は拒んだのです。こう言いました。「創世 39:8-9 ご覧ください。私の主人は、家の中のことは何でも私に任せ、気を使わず、全財産を私の手にゆだねられました。ご主人は、この家の中では私より大きな権威をふるおうとはされず、あなた以外には、何も私に差し止めてはおられません。あなたがご主人の奥さまだからです。どうして、そのような大きな悪事をして、私は神に罪を犯すことができましょ

か。」神に罪を犯すことができますでしょうか、であります。彼は、今、遠くエジプトにいます。ヘブル人の神を知っている人はほとんどいないでしょう。そして、彼は性欲も旺盛な若者です。そして、主人の妻は、家に二人だけにさせました。けれども、彼は一目散にその場から逃げたのです。遠く離れたところにも、そこに主がおられることを知っていたので、神に罪を犯すことができないとみなしました。

そしてモーセもそうでした。彼は、赤ん坊の時にパロの娘が彼を養子縁組にしました。そして、本当のヘブル人の母が乳母となり、イスラエルの神についてのこと、自分がイスラエル人であることについては、その時しか教えられていなかったことでしょう。乳離れした時には、エジプトの宮殿で過ごし、生きていたのです。そしてエリート教育を受け、知的にも肉体においても、優れていたことをステパノが話しています。「使徒 7:22 モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力がありました。」けれども、彼は四十歳になった時に、エジプトを離れる決意をしました。「ヘブル 11:24-26 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。」エジプトにある富、宝には、はかない罪の楽しみがありました。いろいろ、肉の欲を楽ませてもらえるものがありました。しかし、それよりも、キリストのゆえに受ける誹りを大きな富だと思ったのです。その後に来る永遠の報いから目を離さなかったのです。

イエスを主とする生活において、優れた霊が保たれます。イエス様は何もかも捨てて付いてきた弟子たちに、約束されました。「イエスは彼らに言われた。「ルカ 18:29-30 まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。」このように、自分自身をイエス様の主導権に任せてしまっています。他の群衆は、何か自分に不都合なことがあればイエス様から去っていくでしょう。自分の考えや感じていることにイエス様の言われていることがそぐわないのであれば、この方に付いていく意味を見いださないでしょう。しかし、損得ではなく、ただイエス様を主と仰いで、ついて行く者たちの姿です。そこには、優れた霊があります。

2B 祈りの生活

そして、ダニエルは祈りの人でした。祈る人には、二つの特徴があります。一つは、自分は弱い存在であることを認めることです。もう一つは、神の力が必要だと認めることです。祈らないというのは、言い換えれば、自分の思いや気持ち、自分の知恵や力でやっていくことに他なりません。全てのことを主の前に持っていくというのは、ある意味、自尊心を傷つけます。なぜ、幼い子のようにいつも願っているのか？と思うかもしれません。自分で何とかすることこそ、しっかりとした大人だ

と思いますが、靈的にはそれは自分の力に頼っていることです。そのような自信がある時は、祈ることができません。イエス様が、ゲッセマネの園で眠ってしまっているペテロ、ヨハネ、ヤコブに次のように言われましたね？「マタイ 26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」ペテロは、イエス様に死にまでついて行くと言いました。けれども、祈っていませんでした。靈においてはイエス様に最後までついて行くと思っていたのですが、肉は弱いのです。

だから祈るのです。自分が弱いことを知っているからこそ、祈ります。そして祈れば、御霊が助けてくださいます。「ローマ 8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいませ。」

ダニエルは、危機の時に祈りました。試みに遭った時に祈りました。ネブカデネザルが、夢と夢の解き明かしを知者たちができないと言った時に、知者たちをみな殺せと命じました。ダニエルが思慮をもって対応し、そして解き明かしをするので時間の猶予を下さるようにお願しました。そして、こう書いてあります。「2:17-18 それから、ダニエルは自分の家に帰り、彼の同僚のハナヌヤ、ミシヤエル、アザルヤにこのことを知らせた。彼らはこの秘密について、天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚が他のバビロンの知者たちとともに滅ぼされることのないようにと願った。」いかがでしょうか、彼は祈りました。友人たちと共に祈りました。彼には祈り仲間がいました。

そしてダニエルは、苦しい時に祈っただけでなく、日頃から祈っていました。ダニエルは、ダリヨスの宮廷において、素晴らしい働きをしていました。非常に忠実で、勤勉でありました。しかし彼は日に三度の祈りを絶やさなかったのです。これから 30 日間、ダリヨス以外に対して祈願をする者は、獅子(ライオン)の穴に投げ込まれるという法令が出たのですが、6 章 10 節にこう書いてあります。「ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。」つまり、先の危機の時の祈り、試みから救い出してくださることを願う祈りは、このような日常における神への感謝の祈りがあったからこそ、祈ることができたとも言えるでしょう。つまり、日常から避難訓練を受けているからこそ、災害が来た時に行動できます。同じように、日頃から祈るからこそ、危機が起こった時に適切な、御心にかなった祈りを捧げることができます。

3B 神と交わる場

私たち人間は、靈的な存在であることを思い出さないとはいけません。「創世 2:7 神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を引き込まれた。」パウロは、「1コリント 5:17 主と交われば、一つ霊となるのです。」と言いました。靈において、初めて神と交わることができます。た

だ知性や感情だけで、神につながることはできません。霊によってつながります。ですから、霊が肉体や思いより上位に来ていなければいけない。そして、神の御霊が私たちの霊につながっていないといけな。それによって、私たちが優れた霊を保っていることができます。ですから、私たちは御霊によって、神から生まれなければいけません。そして、御霊が私たちの霊と共に働いて、それで優れた霊を宿すことができます。「私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてください。(ローマ 8:16)」そして、「御霊の思いはいのちと平安です。(8:6)」とあります。私たちは、御霊によって霊が上位にあるでしょうか？その思いは、いつも命と平安です。ダニエルには、絶えず平安によって守られていたことでしょう。

そして、肉に従うならば、その思いは死であるとあります(ローマ 8:6)。そして、こうあります。「8:7-8 というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。肉にある者は神を喜ばせることができません。」平安がなくなります。絶えず、不安を補おうとして肉の欲を満たそうとします。けれども、満たれません。しかし、御霊に導かれたら、肉の思いを殺すことができます。

3A 優れた霊の結果

このようにして優れた霊をダニエルが宿していましたが、その結果として、彼に何が与えられていたでしょうか？

1B 高い地位

それは 3 節にあるように、「高い地位」でありました。彼にすぐれた霊が宿っていたので、他の大臣や太守よりもきわだって、優れていました。それでダリヨスは彼に全国を治めさせようとしていました。ダニエルはネブカデネザルの治世で働いていた時も、知者たちの長になっていましたから、絶えず、高い地位にいたのです。そして彼はネブカデネザル、ダリヨス、それからクロス王の治世に至るまで栄えていました(6:28)。もし、すぐれた霊に拠ることがなければ、高慢になって罪を犯すかもしれません。または権力をふるって、人々を虐げるかもしれません。優れた霊があったからこそ、忠実な僕として神に仕えることができたのです。

私たちには、主によって任されているものがあります。すぐれた霊を宿しているのであれば、私たちは任されたものに忠実になることができます。「マタイ 24:45-47 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいどれでしょうか。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せようになります。」ダニエルも、「6:4 彼は忠実で、彼には何の怠慢も欠点も見つけられなかったからである。」とあります。

2B 優れた理解力

そしてダニエルの優れた霊は、優れた理解力を与えました。5章でベルシャツアルの王母が、「5:12 すぐれた霊と、知識と、夢を解き明かし、なぞを解き、難問を解く理解力のあることがわかりました」と言っていました。そして覚えていますね、ダニエルとその友人三人は、三年の養育の後、王の前に出てみると、「1:20 王が彼らに尋ねてみると、知恵と悟りのあらゆる面で、彼らは国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっているということがわかった。」とあります。

私たちが優れた霊を持っていれば、他の人々が見ないものをさらに見ることになります。パウロは、「エペソ 1:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」と祈っています。私たちが、何かが起こっても、それを神のしているように見ることが出来るようになります。そして、神の与えられた計画は、災いではなく、将来と希望を与えるものであるとエレミヤ書にありますから、災いのように見えるようなことにも、それでも希望を失わずにいることができるようになります。そして、神が全てのことを働かせて益にしておられるので、思い煩いを主に任せることができるようになります。そして、終わりの日に神は公平に裁かれるので、今していることに、申し開きをしなければいけないことを知り、御心を行なうことに集中することができます。

3B 広域な影響力

そして、すぐれた霊は、彼に影響力を与えました。ダニエルは、異教のバビロン、そしてメディアにおいて、彼の名が知られていました。ダリヨスは、ダニエルから大きな影響を受けています。ダニエルに対して、「あなたがいつも仕えている神は」と言って、ダニエルが神にいつも仕えていることを話しています。そして、その名は驚くことに、バビロンの全く他の地域に住んでいるエゼキエルにも伝わっていて、「14:14 たとい、そこに、ノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ。」という義人としての評判が広がっていました。そして、ツロの王に対して、「28:3 あなたはダニエルよりも知恵があり、どんな秘密もあなたがたに隠されていない。」という皮肉も言えるほど、ダニエルの知恵は優れているという評判がありました。

私たちは、キリストにあってそうした影響力を人々に及ぼすことができます。信仰をもって月日がそれほど経っていないテサロニケ人でありましたが、彼らは早速、迫害や困難の中に置かれていましたが、彼らのことが信者の手本として広域で広がっていました。「1テサロニケ 1:6-8 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主にならう者になりました。こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。」聖霊による力があつたので、喜びがあり、それが至るところに響き渡っていました。

4B 愛された人

そしてダニエルは、そのすぐれた霊によって、愛される人となっていました。ダニエルが少年雄時に、王のごちそうで身を汚すまいと思った時に、「1:9 神は宦官の長に、ダニエルを愛しいつくしむ心を与えられた。」とありました。そして、彼はここ 6 章でダリヨスから、強く好意をもたれていたし、そして何よりも、御使いから、神によってダニエルが好意をもたれていることを話しています。「10:11 神に愛されている人ダニエルよ。」と二回呼ばれています。人に愛され、神に愛されていました。イエス様もそうでした、少年の時に、「ルカ 2:53 イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人ともに愛された。」とあります。

私たちは自分たちの魅力で、人に、神に愛されるのではありません。優れた霊によって、知恵が与えられ、そのように愛されます。その愛は、神の恵みによるものです。神の恵みは一方的なものであり、受けるに値しないのに受けるものだからです。